

のり面改良工

項 目	内 容	留 意 事 項
準 備 工	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業打合せ(KY活動)</li> <li>規制及び作業内容等の確認</li> <li>保護員の確認</li> <li>使用機械、照明器具、資材、工具の点検</li> <li>架空線、埋設物の位置確認</li> <li>下草、支障木を取り除き、丁張を設置し施工範囲及び掘削位置の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全打合せ書により確認及びKY活動実施</li> <li>作業員全員への周知徹底(埋設物等含む)</li> <li>作業別安全チェックシートの活用</li> <li>作業車の安全装置の確認</li> <li>作業にあつた適切な保護員の着用をする。</li> </ul>
構造物取壊工・機械掘削工	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場KY活動の実施し、施工場所を図面により確認する。</li> <li>作業方法・作業手順・作業分担を確認する。</li> <li>構造物取壊しはバックホウ0.45m3にて行いダンプトラック(4t)にて処分所まで運搬する。</li> <li>地山掘削はバックホウ0.45m3級にて行い所定の位置、延長、勾配を丁張を確認しながら作業を進める。</li> <li>床付けは平坦になるように床均しを行い、転圧機にて転圧する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業に関する注意事項を確認し、KYTを行う。</li> <li>作業にあつた適切な保護員の着用をする。</li> <li>架空線・埋設物等明示、注意喚起し、場合によっては防護する。</li> <li>バックホウなど使用する場合は有資格者が行う事</li> <li>バックホウの作業前点検の実施及び作業計画書の周知を図る</li> <li>旋回範囲内立入防止(コーン、コーンバー)を施して作業する。</li> </ul>
かご枠作成・かご枠設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業方法・作業手順・作業分担を確認する。</li> <li>かご枠の形状寸法を確認し、かご枠を組み立てる。</li> <li>中詰め材は15cm～20cmの割栗石等を使用し敷き詰め、隙間がある場合は目潰し材を入れる。</li> <li>中詰め材の敷き詰めは中央部及び後面側はある程度までバックホウにて投入し、前面側や天端付近は人力にて行う。</li> <li>バックホウによる中詰め材投入時に部材に当たって変形しないように慎重に投入する。</li> <li>所定の位置、延長を確認しながらかご枠をバックホウにて吊り込み、設置する。</li> <li>吸い出し防止材を底面、後面に設置し背面に碎石を投入、転圧し上段のかご枠を積む。</li> <li>上記の工程を繰り返し、所定の位置・段数を積み上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業にあつた適切な保護員の着用をする。</li> <li>架空線・埋設物等明示、注意喚起し、場合によっては防護する。</li> <li>中詰め材で足等への落下、手詰め、足詰め等に十分注意する。</li> <li>バックホウ・玉掛けなど行う場合は有資格者が行う事。</li> <li>バックホウの作業前点検の実施及び作業計画書の周知を図る。</li> <li>旋回範囲内立入防止(コーン、コーンバー)を施して作業する。</li> </ul>
盛土工・法面植生工	<ul style="list-style-type: none"> <li>法面勾配が40度以上になる所は墜落防止処置を図る。</li> <li>所定の位置、延長、勾配など確認しながら良質土あるいは碎石にて盛土を行う。</li> <li>バックホウにて土羽打ちを行い法面の安定を図る。作業範囲外の場合は人力にて土羽打ちを行う</li> <li>既設法面と見栄え良く擦り付け、法面植生材を張る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業にあつた適切な保護員の着用をする。</li> <li>架空線・埋設物等明示、注意喚起し、場合によっては防護する。</li> <li>メインロープが堅固な支持物に2箇所に確実に緊結されているか確認する。</li> <li>傾斜用ロップと傾斜面作業用ベルトの固定を確実にを行う。</li> <li>バックホウ・玉掛けなど行う場合は有資格者が行う事。</li> <li>バックホウの作業前点検の実施及び作業計画書の周知を図る。</li> <li>旋回範囲内立入防止(コーン、コーンバー)を施して作業する。</li> </ul>
落石防止網設置工	<ul style="list-style-type: none"> <li>法面勾配が40度以上になる所は墜落防止処置を図る。</li> <li>たるみのないよう丁寧に広げ、設置箇所にネットを敷設する。</li> <li>メインアンカー、サブアンカーを打ち込む。</li> <li>所定の箇所にネットとアンカーを固定する。</li> <li>ネット連結箇所はジョイントコイルにて連結する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業にあつた適切な保護員の着用をする。</li> <li>架空線・埋設物等明示、注意喚起し、場合によっては防護する。</li> <li>メインロープが堅固な支持物に2箇所に確実に緊結されているか確認する。</li> <li>傾斜用ロップと傾斜面作業用ベルトの固定を確実にを行う。</li> </ul>
後片づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場内および周辺に残材が残らぬよう清掃する。</li> <li>使用した資機材をトラックに積み込む。</li> <li>清掃終了後は、責任者が必ず現場を確認し撤収する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。</li> <li>荷台などに資機材の置き忘れがないか確認する。</li> <li>車両からの飛散防止対策(ネット、資機材の固定)がされているか確認する。</li> </ul>

作業編成(標準)		機材		資材		安全器具・保護具	
作業責任者	1名	ダンプトラック(10t)	発電機	かご枠		ヘルメット	切創手袋
現場監視員	1名	ダンプトラック(4t)	電工ドラム	中詰め材		反射(自発光)チョッキ	消火器
作業員	6名	クレーン付きトラック(4t)	デスクグラインダー	小口止めブロック		警笛	墜落制止用器具
夜間規制監視員	3名	バックホウ0.45m3	5tトラッククレーン	法面植生材		保護メガネ	
		振動ローラー	投光器	落石防止網		防塵マスク	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者へ報告・相談する。

■注意事項(共通の指導事項)

- 1.機械作業は、有資格者が必ず行う。(免許・資格証は必ず携帯する)
- 2.機械の操作方法、安全装置の確認を充分行うこと。
- 3.作業に合った保護具を使用する。(保護メガネ・防毒・防塵マスク・耐切創用手袋等)
- 4.消火器を設置する。
- 5.一人作業の禁止
- 6.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 7.作業で使用しない工具は、発電機を切るかコンセントを抜き、誤作動がおこなないようにする。

■条件

- ①5m以下は「胴ベルト型」の使用も可能とするが、新基準適用のものを使用するものとする。※なお、作業で5mを超える可能性がある場合は、「フルハーネス型」を使用するものとする。
- ②作業床があり、囲い、手すり等を設けている箇所では作業する場合には、「胴ベルト型(新基準適用)」の使用も可能とする。
- ③ブーム式高所作業車を用いて作業を行う場合には、5m以下のみの作業「胴ベルト型(新基準適用)」の使用も可能とする。※なお、作業で5mを超える可能性がある場合には、「フルハーネス型」を使用するものとする。
- ④巻き取り式ランヤードについては、「第2種」の使用も可能とするが、5m以下でしようする場合には、落下時に地面に到達しない場合にフックが取付可能なことを必ず確認のうえ、使用するものとする。